



第135号

平成27年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
山崎 滋 夫
(株) 昭 和 堂

教育の森を育てよう



会 長 理 事 山 崎 滋 夫

社会の今を生きる人間にとって、自分の将来を託す者をどう育てるかということは、いつの時代にあっても変わらぬ社会的課題であり、教育の過ちや手抜き「つけ」が後の世に表われることも歴史の証明するところではあります。

また教育は、人間どうしのあらゆる場面で行われる営みですから、すべての人々がかかわり、役割を負うものであって、決して一部の人に任せて行うものではありません。子ども同士も実は教え合いの社会です。

こうした教育のあたりまえのことがらを、教職員や保護者はもとより、あらゆる領域にある大人たちが自覚し、論議を重ね、方針を定めて、子どもや若者の成長にふさわしい教育環境を日常の生活の場として作る必要があります。

その環境は、多種多様な樹木や生き物、水や草花が互いに依存し、共生し、競い合う、豊かな森の営みに似ています。成木がつくる木陰とうおのいのある養土の中で芽立つべき幼木が、雨ざらし日ざらしの中に置かれ、育ちの土壌を与えられないままに立ち枯れ、歪む姿が、いま社会を震撼させている青少年の心や行動の荒れと重なって見えるのは、私の

思い過ごしでしょうか。また、子どもが秘めている多様な資質をひき出すには、学校だけ、家庭だけ、塾やクラブだけという、いわば鉢植えや花壇栽培を脱することが必要であり、「大魚は海、大木は森で育てよ」との言葉にこそ、人づくりの原点があるのではないかと考えています。

ともあれ私たちには、すでに手遅れとも思える子どもたちの教育の森づくりについて、それぞれのふるさとにおいて真剣に考え、取り組むことが求められています。

自然の森林がその土地の地勢や気象などによって異なるように、教育の森もそれぞれの土地の社会や文化的な背景の違いによる個性を持つはずです。市・町や地区・校区などに見合う森づくりが求められますが、学校や家庭、PTA、育成会などの地域団体、行政や福祉・医療・産業関係機関、文化・スポーツ団体などはいずれの土地にあっても核となる成木でしょうし、地域の諸学校の同窓会も後輩たちのための有力な活動体となる力を秘めています。

森づくりには、それを着想し推進するリーダーが不可欠ですが、やはり子どもたちの教育を専門の職とする、学校の管理職やPTA、自治会、育

成団体、同窓会等の複数の中心的な人たちが語らって動き始めるのが最も自然であり、多くの支援も受けやすいと思われれます。すでに「学校支援会議」などの森がつくられていますが、その地域にある教育力の木立をつなぎまとめて、子どものための最良の教育共同体をつくり育てることとは、学校の職に在る者、在った者が担うにふさわしい大きな役割であろうと思います。本同窓会の会員の皆様方にもぜひご賛同のうえ、それぞれの地で一肌脱いでいただければと強く願うところです。

ところで私たちは、自分自身が学び、体験したことを積み重ねてそれぞれの人間に成長しますが、しかしその過程や成果は、必ずしも「教えられた体験」と一致するものではありません。子どもは自分の学びや成長についての「意思」をもっているからです。したがって、教育の森を創り、運営するにあたっては、そこで育ち、育てられる主人公である子どもたち自身の、日ごろからの求めと発想の参画が何よりも大切にされなければならぬと思います。彼等のための森を育てるのであります。

主題 「学校・家庭・地域社会が 一体となって取り組む教育」

変化の激しい、先行き不透明な社会を、心豊かでたくましく生きていくためには、児童生徒に「生きる力」をはぐくむことが求められています。今とこれから生きる力は、学校における組織的・計画的な学習とともに、家庭や地域社会における、親子の触れ合い・友だちとの遊び・地域の人々との交流など、さまざまな活動を通じて根付いていくものであると考えられています。そのため、学校・家庭・地域社会が連携し、三者が共通の目的を掲げて、児童生徒一人ひとりに向き合う教育の営みを構築することが肝要であると考えます。

すでに各学校におきましては、教育基本法第十三条に示された精神や、それをふまえた学習指導要領が求める「生きる力」の育成に向け、地域や学校の実態及び児童生徒の心身の発達段階や特性を十分に生かした教育活動を工夫し、保護者や地域の方々の協力を得ながら日々活動に取り組んでいるところでもあります。

本同窓会においても、「生きる力」の育成は、学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、社会全体ではぐくんでいくものであり、大人一人ひとりが、社会のあらゆる場で取り組んでいくべき課題であると受け止め、あらためて標記主題を掲げ、研修の場にしりたいと考えました。

現職会員の皆様はもとより、退職された会員の皆様におきましては、寄稿していただいた3校の取り組みを自校の実践と重ね合わせ、あるいは校区の学校の取り組みと考え合わせ、教育再生に向けての取り組みの視点にしていただけだと思います。なお、本号は女性会員の活躍を中心に編集したことも注目ください。

地域・家庭・学校が心をつないで

諫早市立小栗小学校長 道越 貴代美



一 はじめに

創立114年の歴史を有する本校は、昨年、最新設備の新校舎が落成し、大変恵まれた環境の中で教育活動を行っている。

保護者や地域の方々の学校への関心は高く、活発な育友会活動は、今年度、日P表彰が内定し、健全育成会の活動も、子どもと地域の大人がふれあう行事が多彩である。

さらに、育友会OBによる「小栗ふれあい農園実行委員会」は、稲作や野菜作りなど、授業での体験活動を支援してくださっている。

このような中、昨年度、本校に着任し、さらに、学校・家庭・地域が心をつなぎ、目標を共有して子ども

たちを育てる仕組みを整えたいと考えた。

二 「おぐりっ子支援ネットワーク」の誕生

本校では、青少年健全育成会が、いわゆる「学校支援会議」の役割を一部担っていたが、特に支援会議の組織がなかった。そこで、昨年、地域や育友会に呼びかけて、「おぐりっ子支援ネットワーク」を立ち上げた。現在、地域から、健全育成会、民生・児童委員、自治会、老人会、交通安全協会の代表者、家庭からは、育友会の代表者、おやじの会、図書ボランティアの代表者、そして学校から、管理職と職員の代表と計19名で委員会を組織している。

三 活動目標・活動方針の共有

まず、最初に話し合ったのが活動目標である。事前に準備委員会を開き、健全育成会長、主任児童委員、校長、教頭の4人で原案を作成し、御意見をいただきながら、「地域・

家庭・学校のネットワークを広げよう。心豊かでたくましく、賢いおぐりっ子を育てるために」という目標を設定した。

次に、活動方針を①「子どもは地域の宝」を基本に、地域・家庭・学校が同じ目標に向かって活動する。②地域・家庭・学校の役割を確認し共通理解して取り組む。③活動が子どものためだけでなく、ボランティア自身の生きがいや喜びになるようにする。の三点とすることになった。

四 活動の実例

この目標、方針のもと、広くボランティアを募集した。各自自治会の御協力で募集チラシを回覧板に載せたところ、すぐに集まってくださったのが、「1年生見送り隊」と「裁縫お助け隊」の方々である。入学直後の1年生の下校時の付き添いや、家庭科で初めて裁縫を学ぶ5年生の授業支援をさせていただく中で、子どもたちは、地域の方々とふれあい、あいさつを交わし、感謝の気持ちを育むことができている。参加された方が口を揃えておっしゃるのが、「子どもたちから元気をもらおう。」ということだ。活動方針であるボラン

ティア自身の生きがいや喜びにつながっている実感し、嬉しい限りである。

五 おわりに

昨年9月、このネットワークの会議で策定した「おぐりっ子へのメッセージ」に地域・家庭・学校の立場

夢の種をまく

西海市立西海東小学校長 本多ひとみ



から、いじめ根絶、あいさつの励行など、子どもたちへの願いが込められた。大人の鏡である子どもたちのために、大人が鑑となって心をつなぐことが大切だと思う。今後、さらに活動が充実するよう働きかけていきたい。

校長職、小学校、西海市での勤務が初めてという、三拍子揃った新任校長生活も、4か月が過ぎました。

そしてこの4か月は、「学校（の職員）」「家庭」「地域」に支えられ過ぎた4か月でもありました。

本校の合い言葉は、「夢を語れ！東っ子」です。子どもたちには、人生の指針となり得る夢を持ち、自分

自身の言葉で豊かに夢を語ってほしいと願っています。そのことが、とりもなおさず、子どもたちの「生きる力」を培うことにつながると考えているからです。そして、子どもたちが語るに足るための夢を持つには、相応の「出会い」や「体験」が必要だとも考えています。

一学期、たくさんの人を学校にお招きしました。県教育委員会の「体育サポーター活用事業」で、水泳の先生をお願いしたところ、本市崎戸町在住の方でした。夏休みの水泳教室にも来ていただき、「クロールさえも泳げなかつた4年生が、平泳ぎ

で150メートル泳げるようになる」という奇跡が起きました。

6年生の総合的な学習の時間には、市役所の西海支所長を講師として迎え、西海市の歴史について学びました。後日西海市のバスで「横瀬浦」まで出かけ、ボランティアガイドさんにさらに詳しく説明を受けました。ある男子児童は、「お母さん、西海市ってすごいとよ」と興奮して話をしたそうです。

市の事業を活用して、福岡市在住の「ダンサー」も招き、全校でダンスを楽しみました。普段あまり感情を表さない女子児童が、その時の様子を思いを込めながら豊かに作文で表現し、担任を感動させました。文部科学省の「芸術家派遣」事業に応募したところ、この方には、2学期にさらに4回来ていただくことが決まりました。子どもたちの喜ぶ顔が目に見えるようです。県の「トップアスリート派遣事業」では、V・ファールレン長崎の選手に来ていただくことも決まっています。

スクラップ&ビルドで学校経営を進める中、一緒に学校の進むべき道を考えてくださるのは、PTA役員

の皆さんです。月に2回役員会を開催する中で、校長の思いを伝え、保護者の思いを受け取り、ともによりよい方向を目指していこうとしています。学校が新しい取り組みを實行できるのも、子どもたちを支え、ともに育ててくれる保護者や地域の皆さんがいればこそだと実感していま

地域を愛し、愛される生徒の育成

長崎市立大浦中学校長 田中 久美子



本校は市の中心部から南東部、長崎港を見下ろせる高台に位置する。

校区は歴史と伝統を持つ市街地。代々住み、本校卒業の保護者や地域住民も多く、学校への関心は非常に高い。創立時は市内一の生徒数を誇ったが、少子化に伴い、今年度の生徒数は96名。生徒は明るく素直で

す。

学校を支えてくださる方々への恩返しは、「子どもの成長」です。子どもたちに「夢」の種をまきながら、同時にその「夢」を実現させることができる力を、しっかりと身に付けさせていきたいと思います。

落ち着いているが、競争心や積極性に欠ける面も否めない。教育目標「感性豊かで主体的に行動できる生徒の育成」の具現化に家庭・地域と一体となって、本校の弱みと強みを生かした特色ある学校づくりを進めている。

○「つながり、つながって」

子どもは多様な人々との関わり、様々な経験を積み重ねる中で多様な価値観に気づき、感性豊かに成長を遂げていく。本校は小規模校であり、生徒は限られた人間関係の中で過ごすことが多い。豊かな社会性や人間

性、変化の激しい社会を「生き抜く力」を育むには学校だけでは限界がある。そこで、学校経営の合い言葉

を「つながり、つながって」とし、「人・体験・本・地域」とのより多くの学びの場と機会を仕組むようにした。

例えば、学年を超えた縦割り活動や全校生徒での活動、2・3年での職場体験学習、地域住民や外部講師を招いた講演会、全職員の読み語り、地域行事への積極的な参加など、より多様で、より多くの出会いと関わりを求め、奮闘している毎日である。

○家庭・地域・小学校との連携

着任4か月、初めての育成協主催「七夕夏まつり」。500名を超える盛況ぶり、まさに地域総がかりでのコミュニケーションの場であった。

第32回を迎え、地域に愛される行事となった成功の陰には、子どもを愛してやまない地域のキーパーソンの存在が欠かせない。このネットワークを土台にしながら、双方向での地域と共に歩む学校でありたいと切に思う。学校からの情報発信はいうまでもなく、①地域との情報の共有、

②「目指す子ども像」の共有③有効的な学校評価の活用④協働への仕組み

みの構築等、課題解決に向け努力していきたい。

この行事では小中学生も出し物や司会進行など積極的に関わらせてもらった。顔を覚えてもらい、挨拶を交わすことで安心安全の地域づくりにもつながり、何より、こうした経験が地域を誇りに思い、やがては地域を担う大人へと成長が期待できるのではないだろうか。

小学校との連携協働も欠かせない。授業公開や授業研究、小中学校共通の課題設定と共通実践という小中が目的を共有し、学習指導に取り組んでいる。また、教職員だけでなく、地域の学校として、児童生徒間や保護者同士の交流・連携をも目指している。多岐多方面に亘っている。

知徳体の調和のとれた「生きる力」の育成には学校・家庭・地域それぞれ役割の発揮と有機的な連携が重要である。校長が先頭に立ち「つながって」絆を強めたい。



おたっぴやだより

感謝

西彼杵郡長与町 村上 光子
(昭和38年3月卒)



長与町の退職校長会作品展が2年に1回あり、それに大会作品を出品させていただき交流をはかっています。

長与町の小学校に13年になります。が課外クラブとして革細工の指導に年8回ほど行き子どもと一緒にしおり・キーホルダー・財布等を作っています。

毎週月曜日、革の道具を車に積み込みます。すぐ近くの公民館でレザークラフトをやっています。30歳代から80歳代までの方々が思い思いの作品を作り、それにアドバイスをしています。優しく時には厳しく指導をしながら10数年前の教室の子どもたちとダブルとこ、大です。現職中、革の教室に通い技術を取得したことが今大いに役立っています。

また、月2回全国革工展大会に出品のため西山台まで制作に通っています。ここでは生徒の立場で6人の仲間とデザイン・染色と議論大沸騰です。

退職してから町教育委員として14年目を迎えています。当時は殆どが男性の委員でしたがいち早く女性の委員を2名にさせていただきました。現在21市町の教育委員のメンバーは105名で年1回研修会大会を持ち研鑽に努めています。平成27年4月1日より新教育委員会制度が施行されました。法制度の改正趣旨を踏まえて総合教育会議の新たな仕組みと新教育長の下で教育委員会をどのように運営していくかという運用上の工夫と配慮をこれまで以上に必要としていくようです。

今年はいよいよ後期高齢者の仲間入りです。老いは人間をより個人的にするチャンスだと思いきい笑顔・傾聴に心がけていきたいと思う日々です。

「婦人パワー」で 思い出づくり

佐世保市 江口ハツ子
(昭和39年3月卒)



退職が射程距離に入ってくると、退職したら我が子を育ててくれた地域に何か恩返し(大げさ!)をしたと思うようになってきた。

地域を見回してみたけど、子どもたちが遊んでいる姿が殆ど見られなく、地域の行事や子ども会の行事もなく、地域の子どもが一緒になっ楽しんでる場面も見かけない。

「何を」「いつ」「どうやって」。私だけでなく、地域の人たちにも子どもたちとふれ合う楽しさを・ボランティアの楽しさを・知り合いになる楽しさを一緒に味わって欲しいと思った。

そこで、ちょうど婦人部長をして

欲しいとの依頼があったので、前年度の役員3人とその年の役員2人に声を(断れないようにやや強めに)かけ、「読み聞かせ」を始めた。話を聞いて他に4人が応募。計9人で「上堺木読み聞かせの会」を結成した。

読み聞かせだけではなく、その時々伝統行事をとりいれたり、ゲームやおしゃべりタイムを作り子どもたち(小学生以下)とふれ合った。そのための必要経費は会員で：と2000円の会費。(2年目からは町内会より補助)：月1回。かれこれ7年になるかな？

先日、食事会をしながら振り返りをした。地域の子どもたちが一緒に遊ぶようになったとか、みんなと顔見知りになれて嬉しい。子どもたちにあつたら声をかけてもらえて嬉しい、自信がもてるようになった、等の声。よかった!!

「子育ては地域ぐるみで」。まずは顔見知りになること、楽しい思い出を作ることだと思ふ。大人も子どもも笑顔あふれる堺木にしたい。がんばります。

母校だより

目録
藤井 卓

教育学部・大学院 教育学研究科の動向

長崎大学教育学部長 藤井 卓



平成27年度がスタートいたしました。教育学部・大学院教育学研究科へ平成27年4月1日付でご着任された先生方を、お知らせいたします。なお、敬称は略させていただきます。

【ご着任】

藤井 佑介（教育方法学）、田山 淳（特別支援教育）、工藤 哲洋（理科専攻）、峰松 和夫（学校保健）、中村 典生（小学校英語活動）、鶴田 和光（実務家教員）、富野 聡（附属小学校、校長）

以上のご着任された先生方ともども、今年度も努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、長崎大学は旧来からの国立大学とは変わり、国立大学法人という法人組織であることはご存知でしょうか。平成16年4月1日から、国立大学法人長崎大学としてスタートしております。相変わらず、国の支援を得ながらの運営であることに変わりはないのですが、6年で一期の目標を掲げ（中期目標）、それを達成する計画（中期計画）に基づいて運営されており、年度末には中期計画・年度計画の達成状況を、期末には中期目標・中期計画の達成状況を評価されます。そして、平成27年度の今年度は、第二期の最後に当たり、第二期の達成状況の評価と第三期の中期目標・中期計画の策定に忙殺されております。

この中期目標・中期計画は、平成25年度に策定された教員養成分野におけるミッションの再定義の内容を達成するための目標・計画にもなっていることはご賢察の通りです。少子高齢化の進行に伴い、時代は大きく、しかも目まぐるしく変化していることが伺えます。

さて、教育学部・大学院教育学研究科の動向として、教員に必要な英

語力の醸成と、推薦入試における離島教育推薦枠の新設を取り上げさせていただきます。

教員に必要な英語力の醸成につきましては、国策としての英語教育改革が背景にあります。文部科学省では、グローバル化が進む中、国際共通語としての英語を用いたコミュニケーション能力が、わが国の将来を担う児童生徒に極めて重要なものと捉えられています。それが、小学校英語活動の導入や、小学校から中学校・高等学校を通じた一貫した英語教育への動きとなっています。このような社会的な背景を受けて、本学部では教員を目指す学生の英語力向上を意図して、TOEICの受験を課したり教員採用試験特別講座の一部として英語の学習を盛り込む等、英語教育の充実に努めています。小学校英語活動の専任教員を配置したのも、小学校教育コース学生の英語力強化の一環です。また、一般入試の前期日程試験の中で、英語導入に踏み切り、平成28年度入学者選抜から実施する予定であり、入学してくる学生自体の英語力向上を目指します。

離島教育推薦枠につきましては、大学入試の中の推薦入試に関して、新たに設けた推薦枠です。もともと、小学校教育コース学生を対象として40名の推薦枠を設定しておりますが、その中の5名を離島教育推薦枠とし

て、平成28年度入学者選抜試験から実施いたします。少子化の進行に伴い、本県離島地区でも学校の統廃合が進むとともに、地域の疲弊が現実のものとなっています。長崎県教育委員会では第二期長崎県教育振興基本計画において『離島等の過疎地域における教育の維持・向上』を重点施策として推進されています。そこで、長崎大学教育学部では、将来的に離島地区の学校や地域を支え、地域文化の担い手となりうる教員の養成を意図して、長崎県教育委員会との密接な連携・協働のもと、離島教育推薦枠の新設に至りました。この推薦枠で入学する学生には、離島教育に関連する講義や実習をはじめ、ICTを活用した指導法等を含む履修プログラムを用意する予定です。また教育実習では、国内の附属小学校の中でも特徴的な本附属小学校の複式学級において実習を行う予定です。なお、地域に限定した推薦枠は数例見られますが、離島教育に特化した推薦枠は、全国の国立大学教員養成系大学・学部では、初の試みであり、新聞等で報道されるなど注目を集めています。

このように、教育学部・大学院教育学研究科ともに、英語教育や離島教育の充実に向けた取り組みを進めております。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

動いていきます同窓会

平成27年度 図書購入費助成校

一般社団法人長崎大学玉園同窓会は、長崎県内をはじめとする教育の振興に寄与することを目的に、公益的事業として、「図書購入費助成」の事業を行っています。

平成27年度は、左記の学校に助成を行いました。

- 小学校の部
 - 長崎市立西町小学校・長崎市立横尾小学校・西海市立雪浦小学校・対馬市立東小学校・杵岐市立石田小学校
- 高校の部
 - 長崎県立長崎南高等学校

図書贈呈式

9月1日、図書購入費の助成をしました長崎市立西町小学校において、贈呈式を行いました。

山崎滋夫会長より、児童代表へ図書を贈呈し、「いい本をたくさん読んで心と頭の栄養をしっかりと摂ってください」と贈呈の言葉を贈りました。児童の代表からは、「いただいた



本を大切にしながら、読書に親しみ、毎日の生活を豊かにしていきたいです。」とお礼の言葉がありました。

贈呈した一冊一冊が、西町小学校の子どもたちの心を豊かにはぐくみ、人生の財産になることを確信しています。

式にあたりまして、校長先生及び同校の会員の先生方をはじめ、諸先生方に大変お世話になりました。ありがとうございます。

教育学部 原爆殉難慰霊祭

戦後70年、被爆地長崎は、今年も「原爆の日」が巡って来ました。昭和20年8月9日午前11時2分、原子爆弾は、一瞬にして長崎の街を地獄と化し、7万人を超える人々を熱線と爆風によって焼死させました。あの忌まわしい日から、70回目の「原爆の日」を迎えました。

平和公園での長崎原爆犠牲者慰霊平和式典を中心に、市内各地にありまます慰霊碑の前や各小中高等学校では、祈りと平和希求の誓いを新たにす追悼行事が営まれました。

我が長崎大学と玉園同窓会におきましても、文教キャンパスにありまます「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、厳かに原爆殉難慰霊祭を執り行いました。勤労学徒動員令により、この地にあつた三菱兵器製作所に出勤し原爆の犠牲となられた同窓生及び職員54名の御冥福と、平和への願いを込めた、追悼と慰霊のひとつきでした。

慰霊祭は、大学の職員の方の司会進行で進められました。初めに、主催者であります教育学

部の藤木卓学部長の挨拶がありました。

続いて、原爆が投下された午前11時2分、殉難されました方々の御冥福を祈り御霊に黙祷を捧げ、参列された同窓会員及び大学の先生方・職員の方々全員で御焼香を致しました。最後に、同窓生を代表して永嶋寛延先生から慰霊の言葉が述べられ、殉難者の御冥福と恒久平和への誓いを新たにす、滞りなく終了するこ

とが出来ました。慰霊祭の実施にあたりましては、今年も、大学の職員の方々には、テントの設営から献花や供物等の準備、そして湯茶の接待まで、心の行き届いた諸準備をしていただきました。大学の職員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。



幼稚園

平成27年度から子ども・子育て支援制度が施行され、幼児教育全体の質の向上を図っていくと共に3歳未満児及びその親への支援が益々求められています。

本園においても、園庭開放を見直し、回数を年14回に増やし、未就園児も参加できるようにしました。毎回40名程度の方が参加され子育て支援の一環となっています。

また、「共感し合いながら友達とかかわり 協同して遊ぶ子どもを目指して」を研究主題に取り組んで2年目になります。幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向け、保育の質の改善を図っています。研究の成果は平成30年度にまとめ、発表する予定です。

小学校

経営理念

「あなたの願いをかなえます」

附属小学校では、本年度から経営理念「あなたの願いをかなえます」を掲げ、学校経営に取り組んでいます。願いをただの想いに終わらせな



中学校

いように、願いを具体的な目標に変え、その目標を達成するための必要な力を悪戦苦闘能力【知力、心力、体(耐)力】と位置づけ、様々な教育活動に取り組んでいます。夢(願い)を叶えるためのチェックリスト「ドリームシート」の活用、子どもたち一人ひとりの良さを認め、大きな自信へとつなげる「プロの活動」、小学校1年生から中学校3年生まで書き続ける「9年日記」など、新たな活動に取り組んでいます。

昨年度、附属小・中学校共同による研究発表会を初めて開催し、県内外から延べ800名を超える先生方に御参会いただきました。その成果と課題を踏まえ、本年度から改めて小中連携による3か年研究をスタートいたしました。これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力を育む上で、何が

新会員紹介

平成二十六年年度卒業生

学校教育教員養成課程

初等教育課程

小学校教育コース

大事でそれはなぜか「分かる研究、見える授業」を旨とし、連携研究の成果を「附属」の子らの学びの姿と力で明確にお示しすることにより、本県教育の振興に貢献したいと考えております。	研究発表会は、来年2月9・10日(火・水)に附属小中共同で開催します。玉園同窓会会員の皆様の御参会をお待ちしております。	本校は、知的に障害のある児童生徒の社会自立を目的とした学校です。また、大学と連携して特別支援教育についての研究及び次世代の教員養成のための教育実習に真摯に取り組んでいます。特に、教育実習においては、インクルーシブ教育の推進により、近年特別支援教育の必要性を認識し副免として希望する学生が増加しています。共生社会の実現に向けて、その核となって、ぜひ教育現場で活躍してほしいと願っています。	なお、本年度「児童生徒の将来につながる自己」を育むプロセスを探る」という研究テーマで、平成28年2月12日に公開研究発表会を予定しております。多数ご参会いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。	井手口将人 岩永 莉夏 大野 智香 大場 有紗 梶原 芽衣 片山 翔子 川畑 志保 齊藤 眞実 清水 優希 城田 遥香 高柳 杏奈 田邊 紘起 谷口 香織 時田優里香 西口ゆりか 西平 智美 橋本 裕貴 羽辺 美咲 廣瀬 吟司 藤井亜希子 藤村 美里	木下 翔子 堀 奈見 益田 航平 松本 歩 無津呂綾香 村里 翠 森 天衣子 山口 佳月 山口 惟斗 山城 健 吉浦 美穂 吉田 有希 天野 有香 泉セリシア 井上まゆみ 牛島明日可 宇藤 貴史 江頭 裕未 岡部 彩 岡元 理衣 長田 茉凜	徳重 咲 長池 美佑 野崎 徹 林 恵里佳 林田 理沙 樋口優紀子 平山 敬介 福永 航平 前田圭太郎 前田 智子 松藤 有紀 山野 敏久 山本 綾香 山本 実来 吉丸 智大 脇島田花菜 内山 果奈 江上 千裕 緒方志帆子 川畑 尋 柴田 再臨 田中 美里	織田 菜膳 甲斐 就興 梶原 祐二 黒木 美帆 古山 琢也 境 香菜子 榊 小百合 柴田 忠良 依 菜奈美 徳重 咲 長池 美佑 野崎 徹 林 恵里佳 林田 理沙 樋口優紀子 平山 敬介 福永 航平 前田圭太郎 前田 智子 松藤 有紀 山野 敏久 山本 綾香 山本 実来 吉丸 智大 脇島田花菜 内山 果奈 江上 千裕 緒方志帆子 川畑 尋 柴田 再臨 田中 美里
--	--	---	---	---	--	---	--

収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入	420,000	501,000	△81,000	
入会金収入	420,000	501,000	△81,000	3,000円×167名
2. 会費収入	2,920,000	2,603,000	317,000	
会費収入	2,820,000	2,503,000	317,000	1,000円×2,503名
終身会費収入	100,000	100,000	0	5,000円×20名
3. 雑収入	100	97	3	
雑収入	100	97	3	
4. 繰入金収入	2,000,000	2,505,544	△505,544	
繰入金収入	2,000,000	2,505,544	△505,544	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,340,100	5,609,641	△269,541	
前期繰越収支差額	428,583	428,583	0	
収入合計(B)	5,768,683	6,038,224	△269,541	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,055,000	2,709,311	345,689	
会議費	550,000	451,218	98,782	会議要項作成、招集旅費、昼食代、地区懇話会
渉外費	80,000	83,711	△3,711	退職校長会、教師と子供の像等
会報・発行費	1,200,000	1,066,927	133,073	会報2回の印刷・発送
名簿整理費	5,000	3,000	2,000	名簿作成資料代
セミナー開設費	100,000	100,000	0	講師資料代、反省会補助
学部・準会員支援費	120,000	127,181	△7,181	長大祭、学部祭、退官教授祝賀会、卒業発表会
公益事業費	800,000	782,274	17,726	学校図書の助成
支部助成費	200,000	95,000	105,000	通信費、地区懇話会
2. 管理費	2,693,683	2,959,291	△265,608	
報酬給与	1,260,000	1,260,000	0	職員報酬
法定福利費	0	0	0	労働保険料
交通旅費	260,000	288,430	△28,430	交通費
事務用品費	90,000	90,471	△471	コピー用紙、トナー交換、年賀状
消耗品費	10,000	8,765	1,235	お茶、灯油
借料	450,000	452,616	△2,616	家賃、機器レンタル料
光熱水費	120,000	106,900	13,100	電気、水道他
公租公課	71,000	71,000	0	県、市民税
通信費	140,000	117,307	22,693	電話、切手
会費徴収費	90,000	93,540	△3,540	会費振込料
慶弔費	20,000	21,200	△1,200	祝儀、弔電
雑費	182,683	449,062	△266,379	税理事務手数料、法務局登記、残高証明 他
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	
4. 予備費	0	0	0	
5. 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,768,683	5,688,602	80,081	
当期収支差額(A)-(C)	△428,583	△78,961	△349,622	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	349,622	△349,622	

収 支 予 算 書

平成27年4月1日から平成28年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 入 会 金 収 入	420,000	420,000	0	
入 会 金 収 入	420,000	420,000	0	※3,000円×200人×0.7
2. 会 費 収 入	2,780,000	2,920,000	△140,000	
会 費 収 入	2,700,000	2,820,000	△120,000	※1,000円×3,000人×0.9
終 身 会 費 入 会 金	80,000	100,000	△20,000	※5,000円×20人×0.8
3. 雑 収 入	100	100	0	
雑 収 入	100	100	0	
4. 繰 入 金 収 入	2,000,000	2,000,000	0	
繰 入 金 収 入	2,000,000	2,000,000	0	基金会計より繰入
当 期 収 入 合 計 (A)	5,200,100	5,340,100	△140,000	
前 期 繰 越 収 支 差 額	349,622	428,583	△78,961	
収 入 合 計 (B)	5,549,722	5,768,683	△218,961	
II. 支出の部				
1. 事 業 費	2,920,000	3,055,000	△135,000	
会 議 費	500,000	550,000	△50,000	会議要項作成・招集旅費・総会・地区懇話会
渉 外 費	85,000	80,000	5,000	退職校長会・教師と子供の像 等
会 報 ・ 発 行 費	1,100,000	1,200,000	△100,000	会報2回印刷・発送
名 簿 整 理 費	5,000	5,000	0	名簿作成資料代
セ ミ ナ ー 開 設 費	100,000	100,000	0	講師資料代・反省会補助
学 部 ・ 準 会 員 支 援 費	130,000	120,000	10,000	長大慰霊祭・学部祭・美、音への支援 他
公 益 事 業 費	800,000	800,000	0	学校図書の助成
支 部 助 成 費	200,000	200,000	0	通信費5,000円×17支部・地区懇話会
2. 管 理 費	2,609,722	2,693,683	△83,961	
報 酬 給 与	1,200,000	1,260,000	△60,000	代表理事・職員報酬
法 定 福 利 費	0	0	0	労働保険料
交 通 旅 費	280,000	260,000	20,000	交通費
事 務 用 品 費	90,000	90,000	0	コピー用紙・トナー交換・年賀状・西洋紙 等
消 耗 品 費	10,000	10,000	0	お茶、灯油 等
借 料	450,000	450,000	0	家賃・清掃費・機器レンタル料
光 熱 水 費	120,000	120,000	0	電気・水道料
公 租 公 課	71,000	71,000	0	県、市民税
通 信 費	130,000	140,000	△10,000	電話、切手、送料
会 費 徴 収 費	95,000	90,000	5,000	会費振込料
慶 弔 費	20,000	20,000	0	祝儀、弔電 他
雑 費	143,722	182,683	△38,961	税理事務手数料、法務局登記、残高証明
3. 固定資産取得購入支出	0	0	0	
什 器 備 品 購 入 支 出	0	0	0	
4. 繰 入 金 支 出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当 期 支 出 合 計 (C)	5,549,722	5,768,683	△218,961	
当 期 収 支 差 額 (A) - (C)	349,622	428,583	△78,961	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C)	0	0	0	

役員紹介

—平成27年度—

敬称略

(顧問)

藤木 卓(長崎大学教育学部長)

小田 恒治(長崎県教育会理事長)

(OB・S44)

(参与)

峰 信子(OB・S19)

山田 喜孝(OB・S21)

小西 峯一(OB・S28)

(法人理事)

(会長理事) 山崎 滋夫(OB・S37)

(副会長理事) 峰松 終止(OB・S42)

(理事) 平田 徳男(OB・S37)

〃 内野 成美(教育学部教授)

〃 渡邊 洋子(OB・S31)

〃 西平 千治(OB・S38)

〃 中川 幸久(OB・S48)

〃 宮地 計(OB・S30)

〃 草野 昭(OB・S34)

〃 木村 晃一(OB・S34)

〃 小川 大天(OB・S34)

〃 松尾 克久(長与南小校長)

(事務局長) 濱崎嘉一郎(OB・S39)

(監事) 島崎 賢一・縣 恒則

有川 政秀

(幹事) 原 慈子・野中 元則

尾崎 俊輔・安部 和隆

(地区・支部長)

長崎地区 青嶋 秋男(鳴見台小校長)

佐世保地区 溝口 辰夫(OB・S49)

大村地区 坂元 利彦(OB・S48)

諫早地区 森 和弘(上山小校長)

島原地区 松尾 好則(OB・S49)

雲仙地区 三丸 和明(大塚小校長)

南島原地区 柴田 義昭(口之津小校長)

平戸地区 入口 政信(平戸市教委)

松浦地区 田島 豊広(今福小校長)

五島・南松地区 笹山 義徳(崎山小校長)

東彼地区 口木 正弘(彼杵中校長)

西海西彼地区 佐藤 雄一(時津小校長)

北松地区 橋本 淳(小値賀小教頭)

壱岐地区 坂元 正博(盈科小校長)

対馬地区 杉本美津廣(OB・S49)

高等学校支部 玉島 健二(OB・S55)

国立大学法人・小・中・特別支援学校支部

森 浩司(附属中校長)

(地区・支部委員)

長崎地区 菅藤 大三・赤瀬 明子

藤田 克祐・森下 秀男

金森 徹也

佐世保地区 高橋ちあき・前田 英穂

山口 喜典

野田 和宏・赤井 君博
上野 國博・中島 玲子
本多 一郎・澁谷 翠
久富 和幸・大隈 智
仲 重利・池田 英俊

大村地区 濱田 昌彦
島原地区 森本 和孝
諫早地区 澤村 信司
雲仙地区 杉 武侯
南島原地区 山田 芳弘
平戸地区 松永 勤
松浦地区 中村貴代美
五島・南松地区 岡村 珠樹
東彼地区 藤原 正
西海西彼地区 郷野 和代
北松地区 松瀬 大高
壱岐地区 豊坂 敏博
対馬地区 薦田万州生
高等学校支部 田川 直行・中村 敦
菊川 洋二・峯 信幸
中嶋 将晴

国立大学法人・小・中・特別支援学校支部
森内 秀学・山田 勝大

お聞かせ下さる皆さんの声を

長崎大学玉園同窓会は、一般社団法人に移行した機会に、更なる充実・発展を図りたいと考えています。

そこで、会員の皆様の声をぜひお聞かせ願いたいと考えているところです。玉園同窓会の活動について、どうお考えでしょうか。また広報誌「たまぞの」の内容や構成等についてはどうでしょうか。見直したり、工夫したりする余地はないでしょうか。

ホームページを開設しました

本同窓会は、一般社団法人として、その活動状況や、特に公益目的事業について会員の理解をはかることはもとより、それ以外のより多くの人々に知っていただくことが必要になってまいりました。こうしたことから、このたび理事会・総会の議決を得てホームページを開設いたしました。

今後の本同窓会の運営にあたって、大いに活かし新たな同窓会活動をめざしてまいりたいと思いますので皆様のご活用をお願いいたします。

ホームページアドレス

<https://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/ja/tamazono/>
メールアドレス nu-tamazono@mxb.cncm.ne.jp

会員の皆様のお気づき・ご意見、また教育課題や日頃の思いなど、会員の皆様の声をお聞かせ下さい。
いただきましたご意見をもとに、玉園同窓会のあり方等について見直したり、またご意見を広報誌「たまぞの」に掲載したりして、会員の皆様と一緒に考える場にしたとと考えています。
送り先 〒850-10029
長崎市八百屋町36番地
長崎県教育会館内
FAX 095-1824-15494